

ば、一朝邊警あるに會せば臍を嚙むも及ばざるなり。

五 漢回

所謂東干

漢回は、歸化人にして、回々教を奉ずる外、言語風俗の漢人化したる部族を稱す所謂東干トシガンなるもの即ち是れなり。

物の名稱は、往々其の沿革を語ること多し、東干の名稱亦然るに似たり。即ち東干とは、舊と土其其語にて、「トシガン」或は「トルガン」と云ひ、残りし人の義なりと云ふ。其の出處に就き、或る史家の説に依れば、

唐代、回鶻を征し、其の族百萬餘戸を、支那本部西方の廣野に移住せしむ。東干は實に其の後裔なり。回鶻人は新疆土民と交通し、マホメット宗に歸依せしも、漢人と接近して後、婚姻相重なり、年を経て其の風に化し、遂に喀什噶爾地方の同種族と差別せらる。

又一説に、

東干人の一揆は、初め甘肅の敦煌トシホワンより起りしに因り、最初謀叛の傳報は、其の地名に依りたるもの、後には叛民の稱號に變せしなり。